

昌賢だより

第15号(2008.12.1)
発行：群馬社会福祉大学図書館
群馬社会福祉大学学生図書委員会

— 巻頭言 —



『野口体操 からだに^き貞く』を読む

教学部長 櫻井秀雄

古代からの悠々たる文化を誇る中国での北京オリンピックが終了した。開会式や閉会式に象形文字等をテーマにした、いくつものセレモニーが実施された。

そのセレモニーを見ているうちに、教育現場に勤務している時に出会った一冊の本が思い浮かんだ。『野口体操 からだに^き貞く』(野口三千三著)である。著者は東京芸術大学名誉教授の傍ら、「野口体操」と呼ばれる独自の人間観と実技によって、演劇・美術・音楽その他で幅広い活躍をされておられる方である。読んでいくなかで偶然、筆者と同じ大学、同じ体育専攻であるということに、より親密さを感じた。その後、福祉スポーツ分野の仕事に関わることになり、改めてこの本を熟読させていただいた。難解な箇所も多くあり、幾度も読み返しながら文字を追った昔日が懐かしく感じられる今日である。

甲骨文字とヤマトコトバを駆使して、からだやこころの動きを探求していく内容である。「占いの世界が

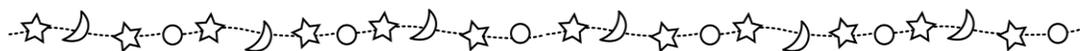
人と神との関係の〈貞〉の行為で、甲骨文が人と神との関係の文字であり、私の体操が意識としての自分と、神としての〈からだ・自然〉との関係によって成立するものなので、〈からだに^き貞く〉ということになる」の文を序に述べている。

著者は、この体操をオリンピック競技でおこなっているような体操でなく、人間一人一人のからだの動きを「実感」として捉え、一つのワクにとらわれない動きと、その感覚を自然に受け入れられる「自然な体操」を語りかけている。

「生きている人間のからだは、皮膚という生きた袋のなかに、液体的なものがいっぱい入っていて、その中に骨も内臓も浮かんでいるのだ」の発想は、まさに著者の独特の世界観に基づいたものに他ならない。

「からだ」を「こころ」と読み替えても、また奥深い味がある本である。

— 先生からのおすすめ本 —



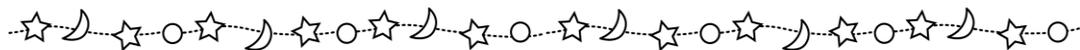
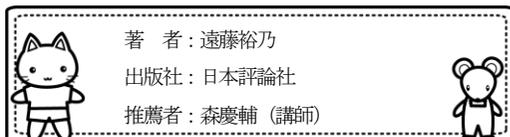
『ころんで学ぶ心理療法：初心者のための逆転移入門』

私がこの本を手にしたのは大学院を出て、仕事を始めたころのことです。その当時の私は、大した知識も技術もなく、「ビギナーズラック」に頼りながら毎日バタバタと仕事をしていました。皆さんも実習現場などに行くとわかると思いますが、「頭ではわかっているんだけど、いざ利用者(クライアント)に対応しようとするとうまくいかない」ということがよく起こります。当時の私も(今もそうかもしれませんが…)なかなかうまくいかず困っていました。

利用者とうまく関係が築けない原因の1つに「転移・逆転移」という現象があります。これは(簡単に言えば)援助者と利用者の中にも援助関係と

は別の感情が入ってしまう現象で、「どうもうまく関係がとれない!」と感じるとき、私たちはこのメカニズムに巻き込まれていることがよくあります。

実際の現場では、知識として学んだはずの理論や技法をそのまま生かし、うまく援助できることは少なく、むしろ戸惑うことが多いはずで、ぜひ実習前に、そして現場に出て困ったときに読んでみてください。何かのヒントを得られると思います。



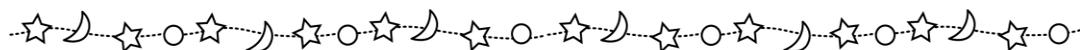
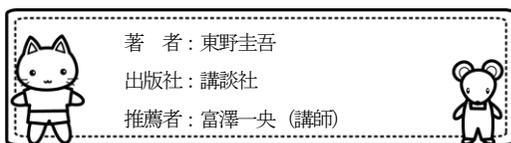
『赤い指』

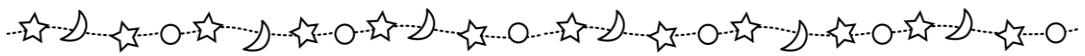
私が紹介させてもらう本は東野圭吾さんの本です。今年はドラマや映画などの紹介でこの名前を聞いたことがある人はたくさんいると思われるが主な作品をあげてみる。まず今年のドラマ化の作品としては「探偵ガリレオ」「予知夢」「容疑者Xの献身」「流星の絆」などがあげられ、その他にも「白夜行」「手紙」「変身」などがあげられる。どの作品も面白いので読んでほしいと思うが、東野圭吾さんの作品の中でもぜひ読んでほしいのが今回紹介させてもらう「赤い指」という本です。この本は親子についてというか家族のあり方について考えさせられる本で、行き過ぎた過保護・登校拒否・嫁姑問題に老人介護の問題と色々な社会的問題をわずか2日間という話しの中に入れ込み、現実ですぐ近くで起こりそうな話の内容なので引き付けられます。

平凡な家庭で突如起こった事件、これが今まで家

族と向き合っていなかった夫にいきなり難題を突きつけ、どうにかして解決しようと画策をし、とんでもない計画を実行に移してしまうという内容だが、この本を読んでいるとその計画と家族にむなしさと怒りをおぼえてしまうが、読み終わった後に多くのことを考えさせられる本です。皆さんも読んでみてそれぞれの立場になって自分ならどうするかを考えてほしい。

この本の中に出てくる加賀恭一郎という刑事の話は「卒業」「眠りの森」「どちらが彼女を殺した」「悪意」と続いているので気になった人は読んでみるのも良いと思う。





『 一瞬の風になれ 』

この本は伝統ある吉川英治文学新人賞を受賞し、2007年に全国の書店からの推薦である本屋大賞の第一位に選ばれた作品です。

物語は春野台高校の陸上部に所属する初心者・主人公の神谷新二、その親友にして全国区のアスリナー・一ノ瀬連を中心にリレーという競技を通じてアスリートとして、そして人間としての成長が語られていきます。

作中で主人公の新二が初めての大会にあたり緊張している時に顧問の三輪先生に言われた台詞はとて印象的でした。

「人生なんて、すべて出会いよ。おもしれえもんだよ。俺とおまえも出会ったわけだから、そこに何か起こるんだよ」
素晴らしい言葉だなと思いました。そして先生の

言葉はこう続きます。

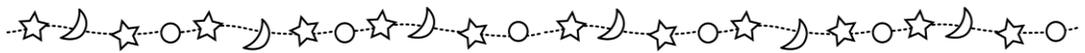
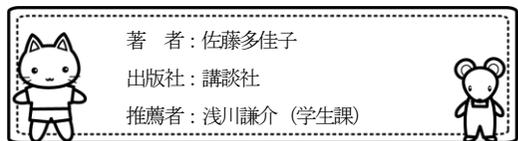
「おまえは、100mを10秒台で走れるスプリンターになれるよ」

新二はこの言葉を支えに三年間走り続けます。もっと速くなるという夢に向かって。

彼らの純粋さ、まっすぐな気持ち、夢を追い続ける姿勢は読み終わった後に素晴らしい爽快感をもたらしてくれました。

分野こそ違えど同じく夢に向けて努力をしている皆さんにも読んでもらいたい本です。

そして、今までのそしてこれからの出会いを大事にしていてもらいたいと思います。



『 はじめてのおるすばん 』

保育園で勤務していたせいにか『絵本』には親しみを持っています。友達にプレゼントしたり、自分で買って揃えてみたり、また、図書館で借りたりと絵本に触れる時間を多く作るようにしています。なぜか目がキラキラ、胸がワクワクするんですよ！皆さんも子どもの頃に読んでもらった絵本に慣れ親しんだと思いますが、心を癒してくれる・気持ちを安らげてくれるものです。もう1度、『絵本』を見直してみてください。また、実習やボランティアに行った時には大いに活用してみてください。

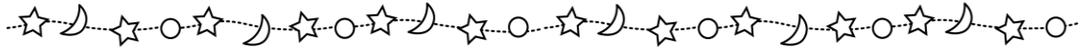
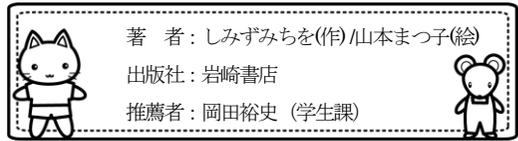
さて、皆さんは『はじめてのおるすばん』という絵本をご存知ですか？というのも私がぜひ皆さんにご紹介したい1冊なのですが、主人公の『みほちゃん』がお母さんが買い物に出掛けている間“おる

すばん”を通じてさまざまな出来事に遭遇するという話です。子どもの頃に1度は経験したことのある“おるすばん”・・・今と昔とは感じ方・とらえ方も変わってくると思います。私も幼い頃1人で何かをすることに心細さを感じていました。それが3歳のみほちゃんにすれびなおさらです。私はこの話を通じて家族や友人の大切さを改めて実感しました。絵本の中でとても寂しげな表情をしていたみほちゃんもお母さんとの数時間ぶりの再会に思わず笑みを浮かべていました。やはり、家族や友人は大切にしていきたいですね！突然起こる出来事に驚いたり、その突然の出来事にどう対応したらいいかわからず、戸惑ったり心細い思いをしたり、また勇気をもったり、心が温まったりというのが絵でも

表現されています。最後に、ごほうびでもらった『プリン』を美味しそうに食べている姿がとてもいいんですよ！図書館に置いてあるので、機会があったら読んでみて下さい。

ぜひ皆さんも絵本を“心の栄養”として読んでみ

て下さい。何か悩んだ時や行き詰った時は癒されますよ！



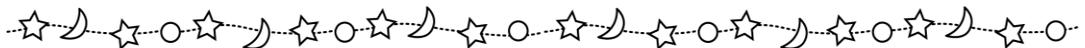
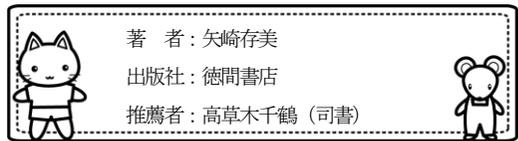
『 刑事ぶたぶた 』

新米刑事の立川君が配属された春日署で上司として紹介されたのは、なんと「ぶたのぬいぐるみ」だった！ビーズの点目が愛らしい「バレーボール」サイズのぬいぐるみなのに、「刑事」で「上司」…。「山崎ぶたぶた」と書かれた名刺まで持っている。

「ぶたぶた」シリーズ3作目。短編集の中で、タクシーの運転手やコックさん、サラリーマンとして大活躍だった「ぶたぶた」が、1冊まるごと「刑事」として様々な事件を解決していく。全10章に分かれているが、それぞれ完結しているのでどこから読んでも楽しめるはずだ。とにかく「ぶたぶた係」と

して一緒に行動することになった立川君とのやりとりは、何かがおかしい。「ぶたぶた」の一挙一動から目が離せない。周りの人達があたりまえのように「ぬいぐるみ」である「ぶたぶた」と接しているのも不思議だ。個人的なお薦めは『完璧な囚』。

物事にちょっと疲れたとき、普通とは少し違ったファンタジーで癒されてみてはいかがでしょうか？「ぶたぶた」がきっと温かく出迎えてくれますよ！



『 日本語でどづぞ 』

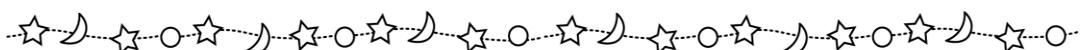
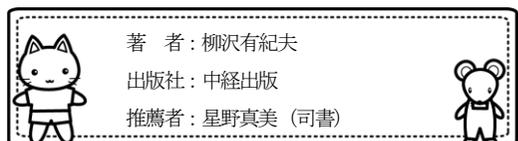
上記の書名を見て大半の方が誤植だと思われたのではないのでしょうか？半分正解で半分不正解です。何故ならこれは誤植のような「勘違い日本語」を集めた本だから。

書名の『日本語でどづぞ』はおそらく『日本語でどうぞ』の間違い。原型を推測できるちょっと惜しいものから日本語だと認めるのに抵抗を感じてしまう妙なもので、世界中でつけたおかしな日本語を写真やコラムを交えてまとめた1冊です。

この本を通じて日本の文化や日本語の美しさを改めて認識して欲しい…とは言い難いので、とにか

く笑って下さい。学習の合間の息抜きにでもどうぞ。1人でクスクス笑いながら読むのも、みんなでツツコミを入れながら読むのも面白い本です。

また、自分で探してみるのも楽しいかも知れません。私も1つを見つけました。海外ドラマの中で発見した「ネヨラヨテ」…一体これ、何のことなのでしょうんか？



— 本 と 私 —

学生の皆さんにおすすめの本や読書観等をおしえていただきました。
この機会にお薦めの本を読んでみてはいかがでしょうか？



— 自分に合った本 —

4年 山口愛美

私は本を選ぶときに見て「おもしろそう」「読んでみたい」と感じたものをいわば直感的に選ぶことが多い。その中には自分の納得できるものもあれば、自分に合わず読みきれないものもある。しかし、「本との出会い」とはまさにこんな感じなのではないかとおもう。人と人との出会いと同じで本にもきつと相性があるのだと。

そのようにして出会った中の1冊がこの『ナゲキバト』という本である。125ページと少し薄めの本ではあったけれど、その中には人として大切なこと、考えさせられることが描かれていた。物語などが好きな人には読みすすめやすいと思うが、その内容は

とても深いものだと私は感じた。

この話の中で私がとくに印象的だったのは「嘘に命はないが人間が命を与え、それを生かすために別の嘘をつく」という1文である。文は多少省略したがこの言葉を見てこれは、まを射た言葉だと思った。人の嘘は1つで終わることもあれば2つ3つと増えていくものもある。まさに、前についた嘘を生かすための嘘であり、世の中にはそんな嘘が沢山あると考えさせられた。

今回紹介したのは私が出会った中のほんの1冊だが、これからも沢山の本と出会っていきたく思っている。



— 『For Friends』という本を読んで —

4年 金子絵美

今から2年前の誕生日、大学で知り合った友達からプレゼントに頂きました。そのプレゼントは、友達の手縫いの素敵なブックカバーに包まれたその本で、タイトルは「For Friends」とありました。

本の内容は、あなた（友達）のことがとても大切だという感情が言葉になり約100個も載っていました。その言葉はどれも素敵で心に響くものでした。その中でも私の大好きな言葉をいくつか述べたいと思います。「おばあちゃんになっても、いっしょにお茶を飲みたいな」「ありがとうなんて、言わなくていいよ！ 友達なんだからあたりまえでし

よ！」などがありました。

今年の誕生日を迎えたとき、再びこの本を手に取り読み返しました。するとあと数ヶ月で卒業するのだと、友達と別の地で社会に出るのだと考えてしまいました。とても楽しい大学生活がもうすぐ終わるのだと実感してしまい悲しくなりました。卒業前にして今の私にこの本の存在は、友達との別れを思い出させるものでした。そこで本に載っていた言葉を友達に贈りたいと思います。「学校を卒業してもあなたからは卒業しない。」





— 心に残る1冊 —

2年 森下拓也

私は正直、本を読むのがあまり好きではありません。細かい文章を読むということが小学生の頃から嫌いでした。今でも本とはかけ離れた生活をしています。

しかし、こんな私にも今まで生きて中で心に残る本があります。題名は「空想科学読本」という何冊か出ているシリーズ物の本です。本の内容は怪獣映画や SF 漫画などの空想科学作品で描写されていることを実際の科学にあてはめればどうなるか？

というコンセプトをもとに検証していくという本です。「ドラえもんのタケコプターを使うと頭の皮だけが剥ぎ取られて飛んでいく」「強酸性の血液を持つエイリアンはストレスに弱い」など、みんなが知っているキャラクターの能力を科学的に検証し、その結果を面白おかしく紹介している本です。

こんなに面白い本は今まで出会ったことがないと誰もが思う本だと思います。私が心に残る本は笑える本。あなたの心に残る本はどんな本ですか？



— 積った雪 —

2年 佐藤寛子

大好きな童謡詩人がいます。金子みずゞさんという方です。きっかけは、母が私の誕生日に買ってきてくれた、金子みずゞの詩集を読んだことでした。金子みずゞの書く詩には道端の石ころや、草花の根、路地裏にかかる影でさえ主人公になります。そして、みんなそれぞれが違った形で存在しているからこそ世界は成り立っているのだということ、本当に大切なものは目には見えないけれど確かにそこにあるということ、詩を通して教えてくれるのです。

そして最後に、金子みずゞの優しさが真つすぐ心に染みてくる大好きな詩を紹介して終わります。

「積った雪」

上の雪 さむかろな。
つめたい月がさしていて。
下の雪 重かろな。
何百人ものせていて。
中の雪 さみしかろな。
空も地面もみえないで。



— 忘れられない魅力的な物語 —

1年 金井里紗

高校生のとき、図書当番をしていたままたま返却された1冊の本に魅かれ、そのまま借りた。まず目を惹くのが表紙である。都会のネオン街の夜景に浮かぶ月の中に、母親の腹の中にいる状態の赤ん坊がいる。「出生率0（ゼロ）」という題名も印象的だ。本の内容は題名からもわかる通り、赤ん坊が産まれなくなった世界の物語となっている。特徴的なのは

年月日、曜日まで指定されていて、それを軸に物語が展開していく。また、時間も克明に表示されていて、同じページには世界人口の人数も書かれている。赤ん坊が産まれなくなっているのであたり前だが、世界人口は減り続けていく。最初の人数は5,000,288,769人。最終的に何人まで減るのかは読んで確かめていただきたい。舞台は2006年6月8

日木曜日。この1日だけの物語。午前7時30分から始まり、午後2時35分に終焉へと向かう。プロログとして1998年の4月の終わりから1999年6月30日水曜日、最後に産まれた赤ん坊の日付までが数ページ描かれているが、物語の核は2006年6月8日木曜日である。運命の1日。これまで続い

てきた日常が正午に放送された日本政府の重大発表によって変貌していく。積み積った政府への鬱憤が爆発すると国民はどのような行動に出るのか。もしかしたらこの物語は近い未来の私たちかもしれない。



— あたたかい小説 —

1年 大野綾子

私は一人暮らしを始めてから、訳なく出口もないような思考になって沈むことが増えました。そういう時にはだいたい本を読みます。中でもよく読むのが畠中恵さんのしゃばけシリーズです。1・2巻は一度実写化され、知っている人も多いと思います。舞台は江戸、主人公は妖怪とくらす若だんなどという、設定こそファンタジーですが、ストーリーは温かい人情ものです。一話完結なので、1冊でたくさんのストーリーとメッセージを読むことができます。中でも私が好きなのは桜の話です。主人公が桜の命を延ばそうと奔走する話なのですが、普段主人公を大

変に甘やかす周りの妖怪がそれにあまり積極的ではないのです。最後には客観的に見た命の儚さと尊さが柔かく余韻を残すような形でおわっています。

全てがハッピーエンドではなく、しかしどこまでも悲しくもない終わり方に何となく穏やかな気分になったり考えさせられたりします。

時代描写も細かく、少し歴史文化の勉強にもなるかもしれません。

1巻は1冊で1ストーリーですが、2巻からは1話完結ですので気軽に手にとってみてほしいと思います。1話読めばきっとはまる優しい面白さです。



— 好きなことに使える時間 —

1年 福田翔平

私は少し前まで、読書から遠ざかってしまっていた。書店などに行っておもしろそうだと思って買ったとしてもうまく一日のスケジュールの中に読書の時間を組み事が出来ていなかったのである。

今、私の家では未読の本が山になってしまっているのだが、いつ読めるのか、と言われると正直回答に困ってしまう。大学生になってからは高校生の時に比べ自由に使える時間が減ってしまったこともあるが、買ったままほったらかしになっている本を見ると読まなくてはいけないように思え

てくるから不思議である。最近ではなんとか睡眠時間を削ってではあるが一日一時間から数分、読書をする時間をとることができている。

きっと、私は本が好きなのだろう一日の中でゆっくりと自分の好きなことに使える時間があると毎日にハリもでる。

皆さんも読書に限らず一日の中に好きなことをできる時間を取れるように努めてみるのはどうだろうか。



★ 2008年10月1日より、図書館HPで所蔵検索ができるようになりました！

【図書館HPアドレス】 <http://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/>

【書誌情報の見方】

登録番号	… パソコンにデータを登録したときに使った番号「バーコードNo.」のこと	
和洋区分	… 和書 / 洋書	
書名	… タイトル	実際に資料を探す時には、 【請求記号】=【背ラベル】が 必要となります。 必ずメモしてきましょう！
巻次	… 巻数	
叢書名	… シリーズ名	
シリーズNo.	… シリーズNo.	
著者名	… 書いた人 / 編集した人	
請求記号	… 資料を探す(請求する)ときに使う番号「背ラベル」のこと	
出版者	… 出版した会社名 等	
出版年月日	… 出版された日	図書館の資料は、 大きさを揃えてならべてあります。 ページ数やサイズ(本の高さ)を メモしてくると、より早く資料を見つける ことが出来ますよ！
ページ	… ページ数 / 付録 等	
サイズ	… 本の高さ 等	
ISBN	… 国際標準図書番号	
配架場所コード	… 配架している棚の種類	

★ 統計資料 ★

単位 / 冊

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	合計
蔵書数	新規	64	856	21	385	36	35	1	415	55	177	2,045
	総数	963	4,008	497	13,289	6,033	626	122	1,938	1,226	1,984	30,686
貸出冊数	学生	21	370	24	1,329	149	51	10	181	35	196	2,366
	全体	34	418	29	1,506	165	68	11	188	38	247	2,704

編集後記

図書館報第15号をお届けします。

昨年度から進めている所蔵資料のデータベース化もようやく形となり、10月には図書館のHPから大学図書館の資料と4月から開校した医療福祉専門学校の図書室の資料が横断検索できるようになりました。

現在、県内図書館相互協力への申請を行っており、来年度には県内を巡回している協力車を利用した相互貸借も可能となる予定です。今後、より一層充実した学習支援が行っていかねばと思います。

最後に図書館報の発行にあたり、お忙しい中原稿の執筆をいただいた方々に心より感謝申し上げます。

(図書館)